WEP 俳句通信

ウエップ俳句通信 VOL.65

特別作品25句●神蔵器「柚子釜」

特集●〈句作の上でいま念頭にあること〉

池田澄子・岩淵喜代子・鳥居三朗・中村和弘・冨田正吉・武藤紀子・伊藤伊那男・藤田直子・今井聖・中西夕紀・木暮陶句郎

【特別寄稿 50 句】

波戸岡旭「論語」

実力作家競詠 20 句

山口昭男「紐」

柳生正名「みしみしと」

山田佳乃「湖北」

書評

廣瀬直人著『視野遠近を読む』小島健

鑑賞会

平栗瑞枝句集『天蚕』・赤松一鶯句集『左見右見』

●好評エッセイ●

視野遠近「大景小景(6)」廣瀬直人

伝統の探求「定型と切字と切れ」筑紫磐井

戦後の俳人たち「鈴木六林男」松岡ひでたか

虚子の肖像「続・虚子の情」坊城俊樹

時空の座・拾遺「なんと松陰先生も」西池冬扇

文学エッセイ「遊女・豊田屋歌川の俳句」酒井佐忠

飯田龍太は森である「作句工房」清水青風

思い出の森澄雄——雅帖の旅　七ヶ宿街道・蔵王篇

作品●田中水桜・猪俣千代子・下鉢清子・加藤耕子・関口恭代・田島和生・大牧　広・市村究一郎・落合水尾・西村和子・板谷芳浄・中根唯生・岸原清行・石井　保・磯　直道・高岡すみ子・秋山素子・鈴木太郎・寺井谷子・河野　薫ほか

雪の吉野川

そして悠の街・脇町

書斎にて

長峰竹芳

特集

句作の上で いま 念頭に あること

句作りの上で、方法あるいはテーマなどについて、現在、最も念頭にあることは何か。
11人の俳人にお書きいただきました。

左より平栗氏、下鉢氏、中村氏

平栗瑞枝句集『天蚕』を読む

出席者：下鉢清子　中村幸子　平栗瑞枝

ウエッブ刊・2700円＋税

編集部　この11月、平栗瑞枝さんが第2句集『天蚕（やままゆ）』を弊社から出版されました。これは、第1句集『花蘇枋』に次ぐもので、平成17年から21年までの作品385句を収めた句集です。これを今回、平栗さんが同人参加している「清（SAYA）の會」主宰の下鉢清子さんと「稲」同人の中村幸子さんに読んでいただき、その感想、作品についての具体的な鑑賞などをしていただくことにしました。まずは、句集の全体的な印象、感想について下鉢さんから語っていただきたいと思います。

下鉢　そうですね。第1句集『花蘇枋』は、昭和57年から平成16年までの作品を収めていましたが、今回のはそれ以後の作品ということですね。平栗さんの句歴は長い方になると思います。わたしは第1句集も読んでおり、その第1句集では、俳句を学び始めた素直さとか、季語というものが分かり始めた気分とかがよく出ていたと思います。そしてご自身が自然観察指導員ということがあり、その面がよく出ていたと思います。調べてみますと、植物に関する句が110句ありました。それが今度の第2句集になりますと、動物の句が80以上あります。視点が少し変わってきているのかなと感じました。そして全体が少し硬くなってきているかなあと。これは、作者が俳句に慣れ親しんできて、素直な表現にあき足らなくなってきているせいからだと考えられますね。しかし、階段をさらに1段上がったという、実力はつけているということは感じました。

中村　この句集を読み、作者は本当に俳句というものに真正面からぶつかっているなぁと感じました。そして、大景を詠んでいても、よく目が働いている、そんな作風なのかと思いました。自然を詠んで、そこに人間を置い